

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4806833号
(P4806833)

(45) 発行日 平成23年11月2日(2011.11.2)

(24) 登録日 平成23年8月26日(2011.8.26)

(51) Int.Cl.

F I

A 6 3 B 69/00 (2006.01)

A 6 3 B 69/00 5 0 7 C

請求項の数 5 (全 15 頁)

(21) 出願番号	特願2007-53429 (P2007-53429)	(73) 特許権者	596072195
(22) 出願日	平成19年2月4日(2007.2.4)		株式会社サン・クリエイト
(65) 公開番号	特開2008-154993 (P2008-154993A)		神奈川県横浜市戸塚区影取町104番地5
(43) 公開日	平成20年7月10日(2008.7.10)		6
審査請求日	平成21年1月26日(2009.1.26)	(74) 代理人	110000051
(31) 優先権主張番号	特願2006-300887 (P2006-300887)		特許業務法人共生国際特許事務所
(32) 優先日	平成18年10月6日(2006.10.6)	(72) 発明者	猪口 耕三
(33) 優先権主張国	日本国(JP)		神奈川県横浜市戸塚区汲沢町1173番地
(31) 優先権主張番号	特願2006-346727 (P2006-346727)		1 ライオンズガーデン戸塚604号
(32) 優先日	平成18年11月27日(2006.11.27)		
(33) 優先権主張国	日本国(JP)	審査官	土屋 保光

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 球技用具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

標的球を入れるため、四面を有するコート(1)の各コーナー(2)の二辺に合致する開口部(3)と略円弧状のポケット部(4)が設けられたポケット付コーナー(5)は、その底面に雌ねじA(19)からなる複数個の装着部A(20)が設けられ、雌ねじA(19)にはコート(1)に固定するための棒状の雄ねじA(17)からなる複数個の該コート固定部品(18)が螺着されて、コート(1)の各コーナー(2)に設置されると共に、該ポケット付コーナー(5)間にはラインテープ(6)を用いてアウトライン(7)が設けられて、球技用の専用コート(21)が作成されることを特徴とする球技用具。

10

【請求項2】

ポケット付コーナー(5)には、開口部(3)及び誘導部(22)及び略円弧状のポケット部(4)を設けたことを特徴とする請求項1に記載の球技用具。

【請求項3】

ポケット付コーナー(5)の底面には、人工芝(23)を挟むシート挟着部品(24)を装着する雌ねじB(25)からなる装着部B(26)が設けられ、ポケット付コーナー(5)に人工芝(23)を挟着するシート挟着部品(24)と雄ねじB(27)を設けたことを特徴とする請求項1に記載の球技用具。

20

【請求項 4】

ポケット付コーナー（５）の底面の両側部には、装着部Ｃ（２８）が設けられ、装着部Ｃ（２８）に、ライン材Ａ（２９）に形成された装着部Ｄ（３０）を装着し、アウトライン（７）として配設することを特徴とする請求項１に記載の球技用具。

【請求項 5】

ポケット付コーナー（５）に装着したコート固定部品（１８）が挿入され、コート（１）の各コーナー（２）に埋設される複数の筒状の挿脱管（３２）を設けたことを特徴とする請求項１に記載の球技用具。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、打撃を伴う球技で、屋外のゲートボール場や公園や空き地やビルの屋上や室内のフロア等で簡単に球技用の専用コートが簡単に出来、各用具の組み合わせによって新しい競技が実施出来る球技用具の提供に関する。

【背景技術】

【0002】

従来の屋外や屋内で行う球を用いた簡単な競技に用いる用具としては、ゲートボール、ゲートゴルフ、ビリヤード、グランドゴルフ、ランボール等がある。

20

【0003】

ゲートボールの用具は、赤組の奇数の１．３．５．７．９と白組の偶数の２．４．６．８．１０の競技者１０人で競技するが、用具は奇数の数字を付した赤玉と偶数の数字を付した白玉の合計１０個と、スティックはヘッドの直径４～４．５センチで長さ１８～２０センチ、柄は長さ７１～９１センチであり、コートは第１ラインと第２ラインを有し、自球をスティックで打撃し第１ゲート、第２ゲート、第３ゲートを通させ、ゴールボールに当てて得点を競うが、他球にタッチしたときにはスパーク打撃でコート外に出したり、送り玉にして作戦を用いて３０分間で得点を獲得する競技に用いる。

【0004】

また、ゲートゴルフに用いる用具は、ゲートボールの用具を使用して一つのゲートを通させ、少ない打数でホールカップに入れるかを競う競技に用いる用具である。

30

【0005】

更に、ビリヤードの用具は、１０００mm以上で皮製のタップがついているキューと、ボールは６オンスの硬質プラスチックで、白い手球１個と１５個の的球のカラーボールには定められた番号を付し、長方形のビリヤードテーブルの内側には三角形のクッションと、そして、四つの角にコーナーポケットと二辺の中間部にはサイドポケットを設け、前記ビリヤードテーブルの上に的球を置き、手球をキューで撞く競技に用いる。

【0006】

また更に、グランドゴルフの用具は、長さ８３センチ、子供用は７３センチの平面で楕円状の打撃部とシャフト部から構成されたスティックと、それぞれ異なった６色の専用カラーボールと、大小の二重輪状のホールポストと、スタートマットにボールを置いて該スティックで打撃してホールポストに入れるゴルフルールを用いて競技を行う用具である。

40

【0007】

そして、ランボールの用具は、ゴルフコースのようなコースで、グリーン上に設けられたカップより３０センチ離れた位置に置かれたジャクボール（親玉）を、マスターボール（持ち玉）を凸面を設けたビンの蓋状の打撃部とグリップ部を設けたシャフト部から構成されたクラブで打撃し、該カップに入れる競技用具である。

【0008】

【特許文献１】特許公開平６－１２１８６５ 更に、囲い枠と紅白２色のボールを２個づつと、ゴルフ用クラブ、アイアンや、ゲートボール用のスティックや独自の叩き器具とで

50

構成し、ボールとボールを当てて勝負するもので、ゴルフのように立った姿勢でボールを叩きビリヤードの等のルール等で勝負する球技でビリヤード、ゴルフ、ゲートボールの3競技をミックスした球技セットがある。

【0009】

【登録実用新案文献1】

登録実用新案第3045971号

また、複数の枠体、辺部球溝及び角部球溝及び一つの底面体を包括し、該辺部球溝は一つの円弧状の溝枠とされ、該角部球溝は角状の溝枠とされ、該辺部球溝と角部球溝の溝枠内側にそれぞれ入り口が設けられ、該入り口の底部に二つの斜面からなる連続斜面を有するストッパーが設けられ、該溝枠の前側上端に円弧状のカバーが設けられ、該溝枠の二側外面の前後それぞれに、表面に複数の締めつけリブを具えた一つの突起が設けられ、各突起より外側の位置にそれぞれ突出ブロックが設けられ、前方の上記突起の底部に一つの係止板が設けられ、前述の枠体は、外枠体と内枠体からなり、この二つの枠体の中空体とされてリブ板により一つの突起孔が形成され、さらに外枠体底部と底面体の周囲に設けられた粘着帯が結合させられ、以上の構成よりなる、ビリヤード型ゴルフ練習具。

10

【0010】

【登録実用新案文献2】

登録実用新案第3031268号

そして、ポケットビリヤードのゲームフィールドより1.5～2.5倍拡大されたゲームフィールドと、該フィールド内に設置される1～15迄の番号が付された15個のボール、1個の手玉とを備え、該ゲームフィールド面は人工芝等のようなボールの転がりのよいシート状物から構成され且つ外周部にフィールド外への飛び出しを防止するための外枠が設置固定され、該外枠には4隅角部と長辺側の中点との都合6箇所にゲートが設けられ、ゲームフィールド内に立ち入った遊戯者がスティックのヘッドで手玉をヒット出来るように構成されている遊戯設備。

20

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0011】

以上に述べた従来のゲートボールは、5人对5人の10人で対戦する競技であり、作戦や頭脳プレーを要する競技であるのでチームプレーをすることが好ましいが、技量や経験の差や高年齢などの影響によって、チームの和を保つことに困難していた。そして、用具のスティックの形状や大きなゼッケンやウェアや帽子等を使用した容姿が高齢者向きと感じられるために若者に浸透しなかった。また、30分の競技時間を10人でおこなうため、一人の持ち時間は約3分位であるが、何度もアウトボールでコート外に出されると競技時間は極端に短くなり、殆ど競技を行う事が出来ない欠点があった。

30

【0012】

そして、ゲートボール競技の快感は、ゲート通過とスパーク打撃であるが、スティックのヘッドが長く大きく硬く、更に、ルールで相手のボールを第一ライン外に出すことを目的としているので、打撃時に大きな打撃音がすることで、早朝の練習場付近の家庭から苦情が出ている。これは、金属ヘッドの内部が空洞になっているための反響音も影響してる。

40

【0013】

また、ゲートゴルフは、ゴルフのルールにゲートボールの用具を用いることで、頭脳を使ったり、ゴルフのように高度な技術が要求されることはなく、競技が単調で用具の使用にも高度な技術が要求されるものでないので飽きてしまう欠点があった。

【0014】

更に、グランドゴルフ競技においては、専用のスティックでゴルフルールを利用するが、ゴルフと違い距離が極端に短く（長い外回りで50メートル）、高度な技術が必要なスポーツではないことで、前記ゲートゴルフと同様に少し慣れると単調で飽きてしまう欠点がある。

【0015】

50

そして、ランボール競技においても、ゲートゴルフ競技やグランドゴルフ競技と同様に競技ルールに従った用具の使用においては単調で飽きてしまう欠点があった。

【0016】

更に、球技セットにおいては、四角形、又は長方形の囲い枠内において、ゴルフ用のクラブやアイアンや、又はゲートボール用のスティックか、又は独自の長柄の叩く器具でボールを叩き転がして競技をし、ルールはビリヤードのルールを用いたり、独自のルールを用いて競技すると有るが、該囲い枠内においてはビリヤード台に有るボールの入るポケットは無く、該囲い枠は外に飛び出すことを防止するものである。そして、独自の叩き体は、ビリヤードの玉を撞くキューのように先端が細く突出させた叩き部を有しているが、先端の細い叩き部で硬質のボールを撞くので無く叩けば折れたり欠けたりする事は容易に想定出来、ユーザーへの製品提供に対する不安が有る。

10

【0017】

また、ビリヤード型ゴルフ練習具においては、辺部球溝及び角部球溝にはカバーやストッパーや連続斜面等を設け、更に枠体においても内枠体と外枠体で構成され、該内枠体と該外枠体は中空体とされているので構造が複雑であるので製造コストが高くなり製品価格は格段に高くなる問題点がある。そして、球技として使用する場合、辺部球溝を2ヶ所設けているが、ビリヤードは、ビリヤードテーブルのクッションは微妙な角度を生み出し、キューの撞き方と相まって高度な技術を要求する球技であるので、該ビリヤード型ゴルフ練習具ではゴルフの技術向上には問題がある。

20

【0018】

そして、遊戯設備においては、ビリヤードとゲートボールとの遊戯性を併せ持ち、ビリヤードのゲームフィールドより1.5～2.5倍の人工芝生等のようなシート状物から構成され、ボールが通過するゲートが設けられ、更にフィールド外への飛び出しを防止するための外枠の4隅と長辺側の midpoint 2箇所の合計6箇所にゲートが設けている。そして、この飛び出し防止の外枠を設けていることで、ゲートボールでは第1ラインからボールが出るとアウトボールとしての罰則が有り、そのアウトボールになった競技者に打順がきても、他のボールに当てたりゲートを通させることも出来ず、只コート内にボールを入れることのみ認められていることで、競技における作戦を立てての頭脳戦が展開されるが、その頭脳作戦の必要性が無くなり競技に面白みが出ない。また、外枠の長さはフィールドの1.5倍から2.5倍の大きさとしているので、3810ミリ～6350ミリとなり、その半分でも1.9メートル以上となり持ち運びが不便である。

30

【0019】

因みに、これらの打撃を伴う球技に用いる用具は、ゲートボールでは、長いヘッドのスティックと赤色の奇数(1. 3. 5. 7. 9)番号と白色の偶数(2. 4. 6. 8. 10)番号のボールと、競技コートは第1ラインと第2ラインとで形成され、該コートの中に第1ゲート、第2ゲート、第3ゲート、ゴールボールを配設している。

【0020】

そして、ビリヤードに用いる用具は、手玉を撞くキューの構成は、先端からタップ、先角、シャフト、ジョイント、バット、キュー尻、バンバーであり、キューの先端に設けた革製のタップに塗る滑り止め材であるチョークと、ボールは硬質プラスチックで1～15の数字を付したカラーボール15個と白の手玉で、テーブルは、長さとの比率は2対1で、クッションエッジの内部はゴムで形成され、6箇所の略半円形のボールが落下するポケットを設けている。

40

【0021】

本発明は、このような従来の球技用具を用いた問題を解決するものであり、4個のポケット付コーナー、コート四面のラインテープを用いたアウトライン、打撃部Aと打撃部Bを包括した短い打撃部を設けたショット用具、2個の自球と1個の黒色の標的球と異なる色彩と数字の複数個の標的球等で構成された用具等を用いて、室内外のゲートボール場を利用したり、空き地や室内のフロアやビルの屋上等で、広い場所を必要とせず少人数でも簡単に競技出来、そして、一人の競技時間を長くして待ち時間が少なく飽きさせず、競

50

技への面白みが沸き継続性も増し、打撃技術や打撃の快感も得て、そして打撃音を抑えて練習場付近の家庭からの苦情に対応出来る球技用具で課題の解決を図るものである。

【課題を解決するための手段】

【0022】

上記課題を解決する本発明は次の通りである。

四面を有するコートの各コーナーの二辺に合致する開口部と略円弧状のポケット部を設けたポケット付コーナーを該コートの該各コーナーに配設するが、この配設された該ポケット付コーナー間にはラインテープを用いてアウトラインを設ける。

【0023】

そして、前記コートで使用する球の種類は、自球の横に標的球若しくは対戦相手の自球を横に並べ、該競技者が履いている競技シューズで自球を押さえ若しくは前記自球の横に標的球若しくは対戦相手の自球を横に並べ、該自球を打撃（ダブルショットと言う。）し、その振動圧で前記標的球若しくは対戦相手の自球を前記ポケット付コーナー若しくは多方面に転がす硬質材からなる1個の黒色の標的球と異なる色彩に異なる数字を記した複数個の標的球と、ショット用具で打撃する球は異なる色彩の先攻と後攻用の2個の硬質材からなる競技者用の自球とで構成されている。異なる色彩に異なる数字を記した前記標的球の個数は、好ましくは8個から11個位が望ましいが、競技時間に対応して個数は増減出来る。

【0024】

また、1個の黒色の標的球を設けたことで、競技時間内に数字を記した標的球を全て両競技者でポケット付コーナーに入れ終わり、一方の競技者が多く該標的球を入れていても、最後に残ったこの黒色の標的球を該ポケット付コーナーに入れた競技者の勝利となる逆転の可能性を秘めたルールを作ることが出来る作用を有す。このようなルールであれば、初心者でも勝利の可能性があり、更に、技術だけではなく、運も大きく作用する球技が出来るので、最後まで勝利が判明しづらい、スリリングな作用が生じる。尚、黒色の標的球としているが、黒色に限定されるものでない。

【0025】

更に、一個の黒色の標的球を異なる色彩のカラフルな標的球の中に配置することで、際立った存在となり、本球技の印象を強くする作用と共に競技名称（球技名、ブラックボール）に用いることも出来る。

【0026】

また、標的球を異なる色彩及び異なる数字を記した複数個としたことで、コート内にカラフルな色彩球が配置されることで、明るく艶やかな球技スポーツを演出する事が出来、子供や若者等年齢、性別にも関係なく該球技スポーツを行うことが出来る作用を有す。

また、自球も異なる色彩球としたことで、自球と他球の判別もし易く、同様な作用を有す。

【0027】

そして、複数の前記標的球は競技規則に従って前記コート内に配置し、1人对1人若しくは複数人对複数人の競技者は前記ショット用具を用いて前記自球を打撃し、その自球で前記標的球に当て、その当たった該標的球を前記ポケット付コーナーに入れるが、その方法は、その当たった該標的球若しくは相手の自球を該自球の横に並べ、該競技者が履いている競技シューズで押さえ若しくは前記その当たった該標的球を該自球の横に並べ、前記ショット用具で該自球を打撃（ダブルショット）し、打撃振動圧で該標的球のみを前記ポケット付コーナーに入れる若しくは多方面に転がす競技に用いる球技用具であるが、このとき、競技者はダブルショットでポケット部に入れる爽快感若しくは打撃爽快感を味わう作用を有す。

【0028】

また、前記自球を打撃するショット用具は、打撃部Aと打撃部Bを包括した硬質の部材からなる打撃部と、グリップ部を設けたシャフト部とで構成されているが、該打撃部A及び打撃部Bは前記シャフト部を略中心に隣接して短く形成されている。このように、打撃

10

20

30

40

50

部の長さを短く形成したので、打撃時に打撃部の重量に係る衝撃が緩和され、打撃音が低下する作用を有す。打撃部の長さは、約10センチメートル位が好ましいが限定されることはない。打撃部の直径は約4センチメートル位が望ましいが限定されることはない。

【0029】

また、ショット用具の打撃部を短くしたことで、電車やバスに持ち込んでも、街中を持ち歩いても邪魔にならず、違和感も起こらない作用を有す。

【0030】

また、ポケット付コーナーを用いることで、コート作りも簡単なことから、様々な場所で、場所もとらず、そして、一つのコートに先攻と後攻用の異なる色の2個の自球を用いることによって打球競技を少人数で行うことが出来るので、一人のプレー時間を長くする作用を有す。自球の数は、シングルの2個（各競技者各1個所持）、ダブルスでも2個を各チーム1個を所持し競技者が交互に打撃する。

10

【0031】

また、上記ショット用具のシャフト部を伸縮自在とすることも含むが、これによってコンパクトで持ち運び便利なショット用具となる。

【0032】

そして、アウトラインを設けたことで競技ルールに罰則を設けることが出来、罰則回避のための作戦を要することで競技内容に変化と面白みが出る作用を有す。

【0033】

前記ポケット付コーナーは、前記四面を有するコートのコーナーに使用のが好ましいが、六面や複数面を有するコートのコーナーに使用する場合は、その使用するコートのコーナー角度に対応した該ポケット付コーナーを用いれば良く、四面のコートに使用限定されるものでない。

20

【0034】

そして、本明細書に記載のポケット付コーナーの底面は一部若しくは全部を空洞としてもよく、材質は限定されるものでないが、間伐材を用いれば森林環境に貢献出来る。

【0035】

本明細書中に記載のアウトラインはラインテープとしているが、粉末のライン材やロープやラインを形成出来るものであっても良いが、ラインテープやロープを用いる場合はコ字型やU字型のライン押さえ釘で土に打ち込んで押さえればよく、コンクリートやフロアーの場合は粘着性のラインテープを用いるかアウトラインを記しても良い。

30

【0036】

また、本明細書中に記載の硬質材とは、樹脂や合成樹脂や金属やゴムや木材や強化木等を指す。

【0037】

更に、本明細書中に記載の自球及び標的球においては、記号、番号、模様やマークやキャラクターを用いても良いが、用いることに限定されない。

【0038】

第1の解決手段は、四面を有するコートの各コーナーの二辺に合致する開口部と略円弧状のポケット部を設けた該各コーナーに設置する標的球を入れるポケット付コーナーである。

40

【0039】

このポケット付コーナーの底面には、前記コートに固定する棒状で雄ねじAを形成しているコート固定部品を螺着する雌ねじAからなる複数個の装着部Aを設け、該装着部Aに複数個の該コート固定部品を螺着するものである。

【0040】

そして、前記コートの前記各コーナーに設置し、ラインテープを用いてアウトラインを設け、球技用の専用コートを形成する用に供するものである。このように、コート固定部品を土のコートに差し込むだけで簡単に専用コートが作れ、持ち運びも便利で、移動して

50

も簡単に該専用コート进行形成する作用を有すと共に、1個のポケット付コーナーに取り付けるコート固定部品を複数とした事で横からの耐圧力が強くなるので、標的球がポケットに打ち込まれても動き難い作用を有す。また、1個のポケット付コーナーに取り付けるコート固定部品個数は、好ましくは2個若しくは3個で良い。

【0041】

本発明のコート固定部品は、棒状の雄ねじAと該雄ねじAを螺着する雌ねじAをもって土のコートに差し込む方法で説明しているが、棒状のコート固定部品に限定されるものでなく、ネジを用いず、挿着式でもよく、また、ポケット付コーナーとコート固定部品が一体形成されたものやポケット付コーナーの側面や背面への取付も含み、土のコートに固定する目的を達成するものであればよい。

10

【0042】

そして、前記ポケット付コーナーをコンクリートやフローアで使用する場合は、棒状のコート固定部品を使用せず、両面テープのような簡易接着用品を利用して固定すれば取り外しも出来るが、また、常時固定してもよい。

【0043】

また、第2の解決手段は、前記ポケット付コーナーには、開口部及び誘導部及び略円弧状のポケット部を設けたことで、ダブルショットされた標的球がポケット部に入っても、該誘導部を設けたことで、該標的球が反発してコート内へ戻る作用を抑えるので、該ポケット部に標的球が入った確認が出来ることでトラブルを防ぐことが出来る。

20

【0045】

また、第3の解決手段は、前記ポケット付コーナーの底面には、人工芝を挟むシート挟着部品を装着する雌ねじBからなる装着部Bが設けられ、該ポケット付コーナーに該人工芝を挟着する該シート挟着部品を雄ねじBで固定することで、室内のフロアやビルの屋上等で簡単に球技専用のコートを作れる。

【0046】

また、本明細書中では人工芝で説明しているが、人工芝に替わる繊維からなるシート状のものであっても良い。また、挟着部品にねじ類を用いなくとも目的を達成すれば良い。

【0047】

また更に、第4の解決手段は、前記ポケット付コーナーの底面の両側部には装着部Cを設け、該装着部Cに、ライン材Aに形成された装着部Dを装着し、アウトラインとして配設したことで、前記コンクリートやフローアや人工芝上でのアウトラインを設け易くなる作用を得る。このライン材Aはアウトラインを目的としたもので、球のクッションに用いる目的としたものでないので、低いものが好ましい。

30

【0048】

このような構成によって、屋内、屋外に関わらず多くの費用もかからず簡単に球技専用のコートの作成が出来る。

【0049】

本明細書中に記載のライン材Aとは、樹脂及び合成樹脂や木材や金属等で形成されたアウトラインとして使用出来るものを指す。

40

【0055】

そして、第5の解決手段は、前記コートの前記各コーナーに埋設する複数個の筒状の挿脱管であって、前記ポケット付コーナーに装着した前記コート固定部品を挿入することで、簡単にポケット付コーナーをコーナーに設置する事が出来る事で、簡単に球技専用のコートを作る作用を有す。

50

【0056】

前記挿脱管の材質は、上中に放置するので、錆びにくい材質を用いることが好ましいので、塩化ビニールなどが最適であるが、陶磁器やステンレス等でも良い、

【0057】

これらの上記各用具の組み合わせによって新規の球技を行える作用を有す。

【発明の効果】

【0058】

上述したように、本発明の球技用具を用いて打球競技を行うが、ポケット付コーナーを用いることで、屋外や屋内のゲートボール場や空き地や公園やビルの屋上や室内のフロア等で、球技専用のコートが簡単に安価に作れる効果を奏す。

10

【0059】

また、1個の黒色の標的球を設けたことで、他の色彩の標的球の中に配置すると、際立った存在となり、本球技の印象を強くする効果と共に競技内容に逆転のボールとすることが出来ることで、スリリングな競技効果を奏す。更に、簡単に覚えられる競技名称（球技名、ブラック ボール）に用いることも出来る。

【0060】

標的球を異なる色彩及び異なる数字を記した複数個としたことで、コート内にカラフルな色彩球が配置されることで、明るく艶やかな球技スポーツを演出することが出来ると共に、子供や若い男女や社会人にも受け入れられる効果を奏す。

【0061】

20

そして、競技者用の自球を2個（先攻と後攻の競技者の相互に使用する自球は、異なる色の球を各1個を使用する）としたことから、一つのコートの競技者は少人数で競技を行うので、一人の競技参加時間を多くする効果を奏す。

【0062】

また、ショット用具の打撃部A若しくは打撃部Bを用いて自球を打撃し、該自球を標的球に当て、そして、ショット用具を用いてダブルショットで標的球をポケット部に入れる若しくは多方面へ転がすことで、競技者はダブルショットの快感を得ると共に、該標的球をポケット部に入れる快感も得るが、これらの快感を得るためにも打撃技術の向上を目指す意識が発生し、スポーツ競技においての重要な要素である競技への面白みが沸き継続性も増す効果を奏す。

30

【0063】

更に、前記打撃部の長さを短くしたことで、打撃部の重量に係る衝撃が緩和されることで、打撃音が低下する効果を奏す。

【0064】

また更に、アウトラインを設けたことで、競技ルールに罰則を設けることが出来るので、競技が単調にならず、内容に変化を持たせることで競技に飽きない効果を奏す。

【0065】

そして、ポケット付コーナーの底面に螺着された棒状の雄ねじAのコート固定部品を設けたことで、土のコートに簡単に挿着し、球技専用のコートのコーナーを短時間に作り出す事が出来ると共に簡単に移動する事も出来、更に、コート固定部品の個数を2個から3個としたことで、横からの耐圧力が強くなるので、標的球がポケット付コーナーに打ち込まれても動き難い効果を奏す。

40

【0066】

更に、ポケット付コーナーの開口部よりポケット部迄の間に、標的球が逆行しないように誘導部を設けたことで、相手の競技者がよそ見をしたときなどにポケット部に入った標的球の確認が出来、トラブルの原因を防ぐ効果を有す。

【0067】

また更に、ポケット付コーナーの底面に人工芝を挟むシート挟着部品を設けたことで、室内のフロアやコンクリートでの人工芝を用いた球技の専用コートを簡単に作れる効果を奏す。

50

【0068】

また、ショット用具の打撃部Aの先端部に滑り止めを設けたことで、自球の打撃時の回転や変化を作用させる効果を有す。

【0069】

そして、ショット用具の打撃部の内部に空洞部を設けないことで、打撃時の打撃反響音が低下することで、打撃音の苦情緩和に効果を奏す。

【0070】

また、各コーナーに埋設する複数の筒状の挿脱管を設けたことで、ポケット付コーナーに装着したコート固定部品を簡単に挿入することが出来るので、球技専用のコートを簡単に作ることが出来ると共に簡単に片づける事が出来る効果を奏す。

10

【0071】

このように、本発明の球技用具を用いることで、明るく艶やかさを感じる斬新な球技を行うことが出来、因って、少年や若者等年齢や性別に関係なく競技への参加興味を起こさせることが出来、新たなスポーツの発展に寄与する効果を奏す。

【発明の実施するため最良の形態】

【0072】

以下、本発明の実施の形態を図1～図15に基づいて説明する。

【0073】

図1においては、本発明の球技用具で、ポケット付コーナー（5）は、コート（1）の各コーナー（2）の二辺に合致するように配設するが、黒色の標的球及び標的球を入れる開口部（3）と略円弧状のポケット部（4）を設けている。

20

【0074】

図2においては、球技用具を用いた球技専用のコート（1）である。コート（1）の各コーナー（2）には、ポケット付コーナー（5）を配設し、アウトライン（7）を設けているが、アウトライン（7）はラインテープ（6）を用いているが、該ラインテープ（6）を押さえるにはコ字型の押さえ具や釘等を用いると良い。

【0075】

図3及び図4においては、ポケット付コーナー（5）の底面には雌ねじA（19）を設けた装着部A（20）を設け、先端の細くなった棒状の雄ねじA（17）を形成しているコート固定部品（18）を螺着する。これによって、該コート固定部品（18）は土のコート（1）の場合には容易に地面に挿入することが出来、球技用の専用コート（21）を簡単に作る事が出来る。

30

【0076】

図5においては、ポケット付コーナー（5）には、開口部（3）及び誘導部（22）及び略円弧状のポケット部（4）を設けているので、打撃されて入った黒色の標的球及び標的球がコート（1）内に戻り難くなる。

【0077】

図6においては、ポケット付コーナー（5）の底面に装着された装着部B（26）に設けられた雌ねじB（25）に、シート挟着部品（24）に人工芝（23）を挟み、該装着部B（26）に雄ねじB（27）で螺着した部分の底面図である。

40

【0078】

図7においては、ポケット付コーナー（5）の底面の両側部の装着部C（28）に、ライン材A（29）に形成された装着部D（30）を装着し、アウトライン（7）として配設した部分の底面図である。このような方法で、簡単に球技用の専用コート（21）が形成される。

【0079】

図8及び図9においては、自球を打撃するショット用具（10）であるが、打撃部A（12）と打撃部B（13）を包括した硬質の部材からなる打撃部（14）とグリップ部（15）を設けたシャフト部（16）から構成されているが、該打撃部A（12）及び該打撃部B（13）は前記シャフト部（16）を略中心に隣接対応し短くしている。打撃部A

50

(12)の先端には自球の打撃時に対する回転や変化を作用させるための滑り止め(31)を設け、打撃部B(13)は硬質の部材である。

【0080】

図10においては、木材を用いたポケット付コーナー(5)の平面図である。この形状にすることで、1枚の正方形の板材で2個の該ポケット付コーナー(5)を製造をする事が出来、資源の有効利用が出来る。

【0081】

図11においては、木材を用いたポケット付コーナー(5)の底面に2個の装着部A(20)を設けている。

【0082】

図12においては、図10のA-A断面図であるが、コート固定部品(18)を取り付けている。

【0083】

図13においては、図12の装着部A(20)をポケット付コーナー(5)に木螺子で取付け、更にコート固定部品(18)を取り付けた部分拡大図である。

【0084】

図14においては、ショット用具(10')の打撃部(14')には空洞部を設けない部分拡大図である。

【0085】

図15においては、ショット用具(10')の打撃部(14')には空洞部を設けないことで、製造工程を少なくすることが出来ると共に空洞部の反響音が発生しないので打撃音を低下させることも出来る。

【0086】

以下、上記構成による球技への使用例を土のコートの例で説明する。四面を有せるコート(1)の各コーナー(2)に、棒状のコート固定部品(18)を設けたポケット付コーナー(5)を各コーナー(2)に夫々配設し、ラインテープ(6)を用いてアウトライン(7)を設ける。そして、出来上がった専用コート(21)内に、1個の黒色の標的球と異なる色彩に異なる数字を記した複数の前記標的球を該専用コート(21)内に配置し、1人对1人若しくは複数人对複数人の競技者は前記ショット用具(10)を用いて前記自球を打撃し、その自球で数字の若い順番から前記標的球に当てるが、当たれば該競技者の履いている競技シューズで該自球を押さえ、その当たった該標的球を前記自球の横に並べ、前記ショット用具(10)の前記打撃部(14)の打撃部A(12)若しくは打撃部B(13)で該自球のみを打撃し、その打撃した振動圧で該標的球のみを前記ポケット付コーナー(5)に入れるが、定められた時間内に両競技者で全ての標的球を該ポケット付コーナー(5)に入れ終わり、一方の競技者が多く標的球を入れても、最後に残った前記黒色の標的球を自で当て、前記スパーク打撃で前記ポケット付コーナー(5)に入れた競技者の勝利とする競技に実施することが出来る球技用具である。

【0087】

このように、本発明は、各々の用具の構成によって、年齢、性別や体重や身長などによる影響もなく、また、コート内にはカラフルな球が散らばり明るく艶やかな新しい打撃を伴う球技が行える球技用具を提供することが出来る。

【図面の簡単な説明】

【0088】

【図1】 図1は、本発明の第1の実施形態を示す球技用具のポケット付コーナーの平面図である。

【図2】 図2は、本発明の第1の実施形態を示す球技用具を用いた専用コートの平面図である。

【図3】 図3は、本発明の第2の実施形態を示すポケット付コーナーにコート固定部品を螺着した正面図。

【図4】 図4は、本発明の第2の実施形態を示すポケット付コーナーにコート固定部品

10

20

30

40

50

を螺着した部分の断面図。

【図５】 図５は、本発明の第３の実施形態を示すポケット付コーナーの平面図。

【図６】 図６は、本発明の第５の実施形態を示すポケット付コーナーにシート挟着部品に人工芝を挟着した部分の底面図。

【図７】 図７は、本発明の第６の実施形態を示すポケット付コーナーにライン材Ａを設けた部分の平面図。

【図８】 図８は、本発明の第７の実施形態を示すショット用具の正面図。

【図９】 図９は、本発明の第７の実施形態を示すショット用具の要部拡大図。

【図１０】 図１０は、本発明の第２の実施形態を示すポケット付コーナーを木材とした平面図である。

10

【図１１】 図１１は、図１０の本発明の第２の実施形態を示すポケット付コーナーの底面に装着部Ａを設けた底面図である。

【図１２】 図１２は、図１０の本発明の第２の実施形態を示すポケット付コーナーにコート固定部品を設けたＡ－Ａ断面図である。

【図１３】 図１３は、図１０の本発明の第２の実施形態を示すポケット付コーナーの図１２の部分拡大断面図である。

【図１４】 図１４は、本発明の第８の実施形態を示すショット用具の打撃部に空洞を設けない部分拡大図である。

【図１５】 図１５は、図１４の部分拡大図である。

20

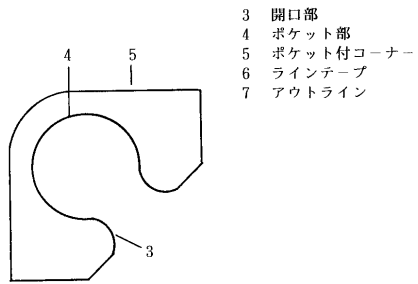
【符号の説明】

【００８９】

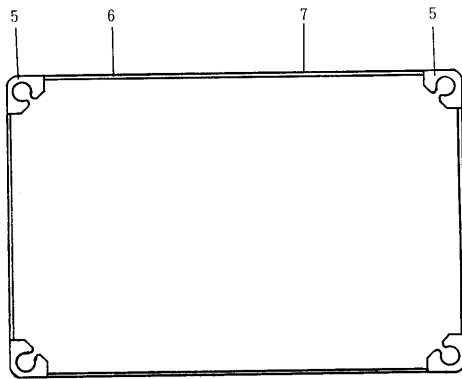
- | | |
|--------------|-------------|
| １． コート | ２． コーナー |
| ３． 開口部 | ４． ポケット部 |
| ５． ポケット付コーナー | ６． ラインテープ |
| ７． アウトライン | |
| １０． ショット用具 | |
| １２． 打撃部Ａ | |
| １３． 打撃部Ｂ | １４． 打撃部 |
| １５． グリップ部 | １６． シャフト部 |
| １７． 雄ねじＡ | １８． コート固定部品 |
| １９． 雌ねじＡ | ２０． 装着部Ａ |
| ２１． 専用コート | ２２． 誘導部 |
| ２３． 人工芝 | ２４． シート挟着部品 |
| ２５． 雌ねじＢ | ２６． 装着部Ｂ |
| ２７． 雄ねじＢ | ２８． 装着部Ｃ |
| ２９． ライン材Ａ | ３０． 装着部Ｄ |
| ３１． 滑り止め | ３２． 挿脱管 |
| １０'． ショット用具 | １４'． 打撃部 |

30

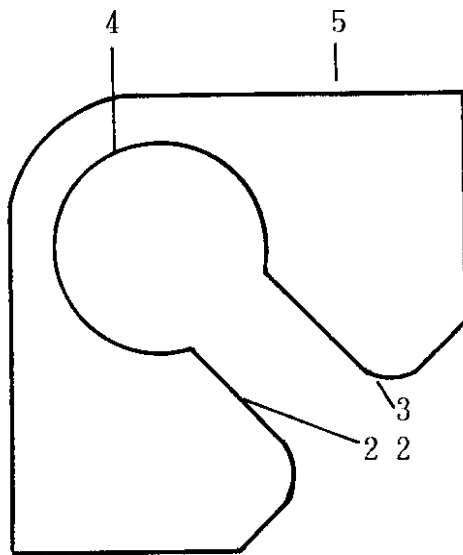
【図 1】



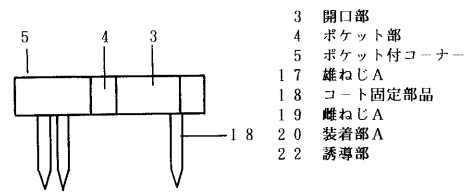
【図 2】



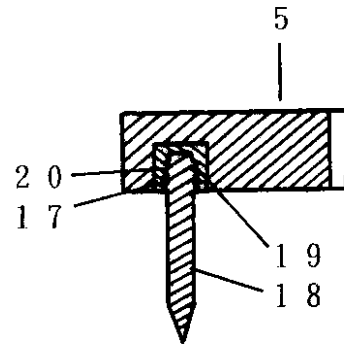
【図 5】



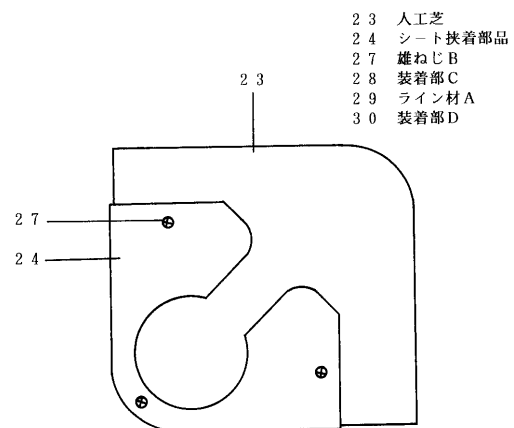
【図 3】



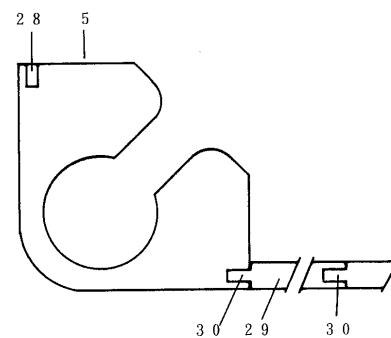
【図 4】



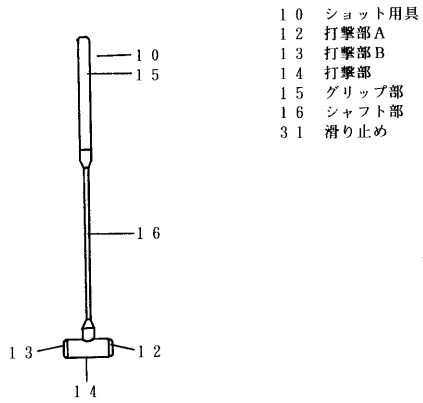
【図 6】



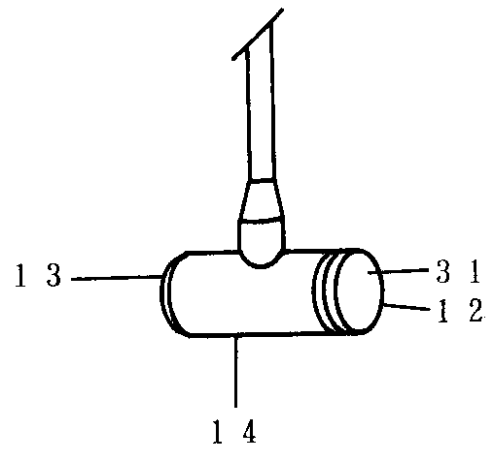
【図 7】



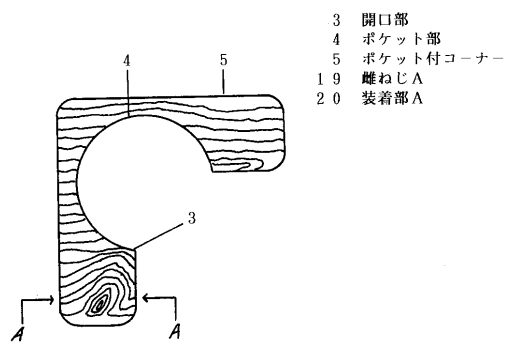
【図 8】



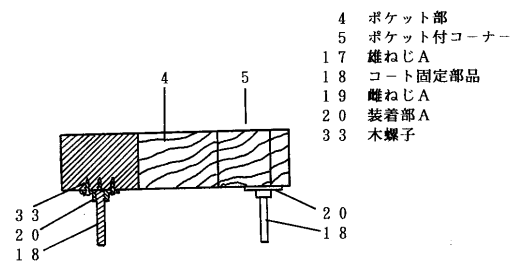
【図 9】



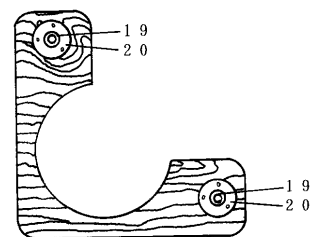
【図 10】



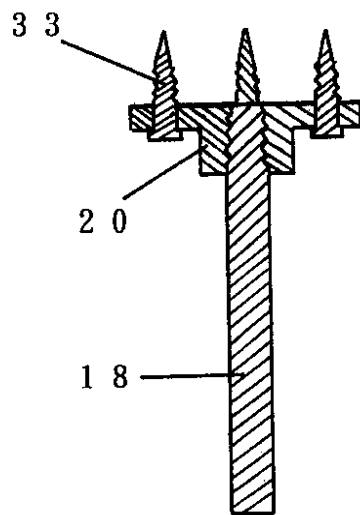
【図 12】



【図 11】

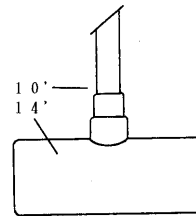


【図 13】

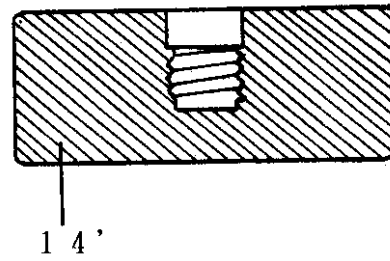


【図 14】

10' ショット用具
14' 打撃部



【図 15】



フロントページの続き

- (56)参考文献 登録実用新案第3031268 (JP, U)
特開平09-206422 (JP, A)
登録実用新案第3045971 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63B 69/00-69/40
A63B 71/00-71/16
A63D 15/00